

別紙 2

「東日本大震災による現地状況と、石巻市十三浜地区での結による復興の芽生え」

象地域設計 松木 康高

震災発生後、被災地への支援として、4月上旬と4月末に宮城県へ行ってきました。

仙台市若林区や名取市、石巻市における津波被害は壊滅的です。また、仙台市の中心部では地震被害として、地滑り、液状化、屋根や壁、窓の破損など、元の生活に戻るには大がかりな修繕が必要な状況があります（建物倒壊の被害は少なく、1978年宮城県沖地震後の耐震化の取り組みが生きていると思われます）。

東京で生活する私たちにできることは、現地の方々の声を聞き、避難状況の改善や主体的な復旧・復興の気持ち（力）を支えることだと思います。

新建・宮城支部の佐々木文彦さんが住まう石巻市北上町十三浜地区では、津波による甚大な被害を受けながら、「結」という日常の助け合いにより、避難所の運営だけでなく、自衛隊の支援が行き届かない段階での道路の復旧、沢水による飲料水の確保などを行ったそうです。

2度目の支援では、十三浜地区の復旧・復興活動の拠点となりうる佐々木さんの被災した事務所の片付けをお手伝いしてきました。

■スライド紹介

1. 東日本大震災の被害状況

* 東北全体図（朝日新聞 2011. 3. 29 より）

2. 仙台市、名取市の状況

* 現地確認、支援を行ってきた場所（プロット図）

* 被害の状況（津波、地滑り、液状化、屋根や壁、窓の破損など）

* 避難所、仮設住宅の様子

* 復旧・復興の取り組み

・ 東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センターの設立

・ 相談活動の開始（5/22 仙台市でのマンション相談会 ほか）

3. 石巻市北上町十三浜の状況

* 津波被害と地盤沈下

* 「結」という日常の助け合いによる避難活動

* 復旧・復興に向けての課題と意欲

* 外部からの支援活動（私たちの事務所の片づけのお手伝いを含めて）

■自分たちにどんなことができるか

* 被災地の人々が取り組んでいるまちづくり（の、どれか一つ）に張り付いて、継続的に、我が事のように、支援・協力しよう。

* この際、自分の住んでいる「まち」の防災・減災まちづくりを考え、運動を起こそう。日常から心配事を共有し、つながりを持っていくことが大切。